

大阪医科大学 2017年度(前期)入学試験 解答速報 英語

2017年2月11日 実施

問題 I

- (1) 私たちの心の中にあるこの障壁には、私たちが自分の将来について考える能力を阻害する力があり、そのため私たちは今ここから「動けなく」なるのだ。
- (2) 現在活動している気候学者の 97 パーセントが、地球温暖化が進んでいるのは主に人間の活動のせいであると主張している事実があっても、このような頑固な否定論者は自説を引っ込める気にはならないようだ。
- (3) 視界に入らなければ考えもしなくなることもあろうが、それによって気候変動が広い範囲に影響を及ぼすという現実は変わらない。
- (4) 気候変動が提供するこれらの好機をものにするために、私たちはまず、気候変動が現実であることについての一切の疑いを払拭し、次に私たちが「今」できることに目を向けなければならない。それは目先の利益のためではなく将来の自分たちのためなのだ。

問題 II

- (1) 同じ程度の外的経験、同じ程度の知能を備えた二人のうち、自らの経験についてよく考え、それらを経験相互の連関した体系の中に組み込む者の方がよりよく記憶できるだろう。
- (2) そうした事実がその理論と関係していれば、その事実は記憶にしっかりと残るのであり、頭を使って見出せる関係が多ければ多いほど、その知識もより揺るぎないものとなるのだろう。
- (3) 詰め込み型の知識は頭の中で他の事柄とつながって体系化することがなく、想起の糸口も少なくなるから。(48 字)

問題Ⅲ

(1) Japan today is faced with difficult circumstances where smaller working population support the lives of retired people.

[別解] In Japan, we are now faced with a severe situation where the number of working people who are supposed to back up the lives of retired ones is getting smaller.

(2) Along with a rapid increase in the number of the elderly, the voting age was lowered from twenty to eighteen last year.

[別解] As the number of old people increases, the minimum voting age was lowered last year from twenty years old to eighteen.

(3) Young people must realize that various policies affecting their own future depend on the election results, and they must give their voice.

[別解] Young people are expected to know that some policies, which have influence on their own future, are determined by the results of elections, and to speak out their opinions.

講評

大問Ⅰは気候変動に関する人々の認識についての文章で、形式は例年通り。易しめの出題で、構造についても悩む部分は少ない。大問Ⅱは記憶の秘訣に関する内容で、昨年と同じく説明問題を含んでいた。一見読みやすいが、指示内容を明示する必要のある小問2は難しいだろう。大問Ⅲは問題文の構造自体はとらえやすく、定型表現を多く用いる標準的な問題だが、つなげる部分に工夫を要する。大問Ⅲの出来次第で点数に差が出るだろう。全体としては6割5分が目標。

医歯学部進学予備校 **メビオ**

〒540-0033 大阪市中央区石町2-3-12 ベルヴォア天満橋

TEL 06-6946-0109 FAX 06-6941-9416

<http://www.mebio.co.jp/>

